

山小屋で勤務していた仲間のOさんが、山小屋勤務終了後、立山(室堂)のとあるホテルに勤務しているというので山小屋仲間集合する事になる。日程はOさんが休暇となる日に合わせて出発することに。昨年勤務していた仲間にも声をかけると、参加出来るとの事。楽しい宴になりそうだ。

天気良ければ、雄山にも登ろうと計画する。宿泊予約する時にその旨を告げると、「完全な冬山です。アイゼン、ピッケル、ロープ、冬山の装備をしっかりと来て下さい。今朝は気温マイナス11℃ですから」との事。素泊まり(自炊)での宿泊を予定していたため食材、冬山装備…かなりの荷物になりそうだ。前日にOさんから電話。「天気が今日から悪くなるみたいです。今日は一日真っ白で景色も楽しめない状況。皆さんに立山に来てもらうのが申し訳ないのですが…」とのこと。「今回は皆で集まる事が目的なので、それでもとりあえず立山(室堂)まで行きますね。」と返事する。

雄山登山を断念し、立山(室堂)のんびり宿泊ツアーに変更。立山は何度か足を運んでいるが、毎回登山目的なためのんびりホテルに宿泊した事がない。たまには立山でのんびり過ごすのも悪くない。

10月29日(木)

出発は皆バラバラで、関西、長野から本日仕事終わり後、夜行バスで富山に向かうと様々。私は6時50分発の新宿～富山行き的高速バスに乗車。運賃5000円。このバスを利用すると富山駅に到着した後、最終便の立山(室堂)行きに間に合う。

<ポイント1>

東京～富山行きのバスは夜行便は結構あるが昼便が少ない。今回利用したバスは3列シートでゆったりしていて快適。お勧めです。

西武バスのホームページ、下記アドレス参照。

http://www.seibus.co.jp/kousoku/line/line_toyama.html

高速に乗るまで、途中にいくつかの停留所がある。座席を倒し、いつの間にか眠っていた。気付くと後部座席におじ様のグループがいた。

「すみません、座席倒させていただいていますが大丈夫ですか？」と遅ればせながら声をかける
「どうぞどうぞ、気にせずどんどん倒して下さい。…こちらはいつ倒れるか分かりませんが…」と、おじ様4人グループ大爆笑。その後も、奥様の話や仕事の話で盛り上がっている。
女子会ならず、男子会？実に楽しそうな男珍道中の旅のようだ。



上信越道を使用し、富山までの道のり。
通過した群馬県は紅葉が鮮やか。
車中から写真撮影。
先月登った妙義山は今日もカッコいい雄姿を見せてくれる。
反対の窓のため、撮影できず残念。
(エキスパートコレクション通巻375号参照)
北陸道に入ると、右手に日本海が。
この頃には天気も一変。
どんより空で寒々しい雰囲気。

13時50分 富山駅到着

天気は思ったより悪くない。もしかしたら立山は雲上の世界で晴れているのではないか！？と淡い期待を抱く。

富山駅から富山地铁電車に乗車。いくつか行き先が分かれているので駅員さんに確認する。「室堂に向かう最終便になるので乗り遅れないよう気を付けて下さい」。とご忠告いただく。切符を購入し、時間に余裕があったので駅ビル内のスーパーに足を運ぶ。富山の名産が並んでいる。どれも美味しそうだ。お土産をここで購入するのも良いかもしれない。

14時45分

地電 富山駅～立山駅に乗るため再び駅に戻る。

15分前ではあるが、ホームで待とうと

改札口を通ろうとすると先ほどの駅員さんに呼び止められる。

「まだ中には入れません。もう少しお待ちください」

改札は直前でないと通れない様である。

確かに、改札口の前で待っているお客様はいるが、

ホームには人がいない。てっきり寒さをしのぐためなのか

…と勘違いしていた自分が少々恥ずかしい。

利用される方は気を付けて下さい。

終点の立山駅まで約1時間。のどかな田園風景を眺めながら

途中うつらうつら。

立山駅に近づく頃にはだんだん気温が下がってくる。

ザックからジャケットを取り出す。

(富山電鉄 富山駅)



14時36分 立山駅到着。

空は晴れ間なし。駅に降りると駅員さん達が本日最後？の大仕事。

「室堂行き最終立山ケーブルカー切符売り場はこちらになります！急いで下さい！立山ケーブルカー乗り場はこちらになります！急いで下さい！」

急げと言われてもお手洗いにいきたい。急いで用を済ませて、切符売り場に向かうと、関西から出発したYさんとすれ違う。既にYさん切符購入済。私も急いで購入しYさんと合流。改めて見るとYさんすごい量の食料を持参している。背には大きいザック、前には小さいザックという姿。天晴れ山女！

16時00分 立山駅発美女平行きのケーブルカーに乗車

16時07分 美女平到着

<ポイント3>

美女平一帯は「森林浴の森・日本100選」に選ばれた森で、立山杉の巨木やブナ、トチなどの原生林が広がる。(立山黒部・アルペンルート見どころリーフレット参照)

ここでも室堂行き最終便のアナウンスをスタッフの方々が行っている。ここで、係の方に声をかけられる。「すみませんが重さのチェックをお願いします」。すっかり忘れていたが、荷物によって乗車券の他に荷物代を払う場合がある。

<ポイント 4>

有料手回り品 料金 高原バス(美女平～室堂) 300 円

※重量が 10 kg を超える品やスキー(1m 超)、スノーボードなど。

※手回り料金は各乗り物 1 回の持ち込みにつきお支払い

友人 Y さん 14 kg、ということで 300 円。私、少しオーバーしていたが係員さんおまけしてくれた。

16 時 10 分 立山高原バスにて美女平出発

距離 23 km、標高差 1500m を結ぶ高原バス。途中弥陀ヶ原、天狗平とバス停がある。景色が良ければ見どころ満載の道であるが生憎の雨でホワイトの世界。そして途中から道路わきに雪が現れる。

<ポイント 5>

弥陀ヶ原は、標高 2,000 メートル前後に広がる湿原。木道を歩けば 6～9 月にかけては可憐に咲く高山植物を、9～10 月には鮮やかな紅葉を楽しめる。(立山黒部・アルペンルート見どころリーフレット参照)



(室堂 ターミナル)

17 時 00 分 室堂駅到着

室堂で働く友人 O さんに連絡し合流。30 分以上立ち話。気付くと、スタッフと我々のみの静かなターミナルとなる。O さんは明日再度合流との事で一回お別れし、私達は本日宿泊の「立山室堂山荘」に向かう。

ターミナルを出ると外は暗闇。そしてガスっている。目的地まで近いと思い暗闇の中を歩くも、早々に道を間違えてしまい違う建物に到着してしまう。再びターミナルに戻りヘッドランプを取り出し歩く。ターミナルから 10 分もしない距離ではあるが、手袋をしないで歩いたためすっかり手がかじかんでしまう。真冬の寒さである。

17 時 50 分 室堂山荘到着

宿泊代を支払い部屋に向かう。「山荘」と付いているが、ホテルと同じ(に私は感じる)待遇。長野からきた友人は午前中に既に到着していた。温泉に浸かり宴会になる。自炊と言う事で、バーナーは食堂から扉一枚離れたところで使用させていただき、食事は食堂を使用しているとの事。お湯も無料で頂けるとのこと。ありがたい。コッヘル三つ分にお鍋をつくり、ビールと梅酒で乾杯。その後も消灯の 21 時まで木造りの食堂でゆっくり過ごさせていただく。天井も高くとても居心地よく快適。

<ポイント 6>

立山室堂山荘。来シーズンの宿泊の受付は 2016 年 2 月から開始のもよう。詳細は下記、立山室堂山荘ホームページ参照。

<http://www.murodou.co.jp/index.htm>

11月下旬には、室堂にある宿泊施設も全て閉業。
来年の立山アルペンルートが開通するまで
限られた人しか足を踏み入れる事ができない
厳しい冬山となる。

10月30日(金)

夜行で出発した友人と合流し、長野観光をする。
今回は生憎の空模様で山に登れないばかりか
景色も楽しめなかったが、山小屋仲間女子5人
楽しい思い出ができた。

いよいよ冬山到来。

皆様も無理のない楽しい雪山を楽しんで下さい。



(室堂山荘よりターミナル方面)